

学校教育目標

自ら輝け 夢をつかめ

<笑顔・感動 はつらつ植水>

学校だより

瑞穂



令和2年度2月号

令和3年2月1日

さいたま市立植水中学校

人知れずの努力を

校長 茂木里仁

まもなく立春を迎えますが、今年は昨年と比べて厳しい寒さが少なく、平年に比べ温かい日が続いております。1月8日に2度目の緊急事態宣言が発出され、学校では、コロナウィルス拡散防止に向け、始業式を放送で実施、部活動の停止、三密を避け、手指消毒や教室換気、マスクの着用など徹底した対応を実施しているところです。地域・保護者の皆様におかれましては、コロナ禍におきましてもご健勝にてお過ごしのことと存じます。

このような中、本校をはじめ西区の中学校6校は、3月に実施を予定しておりました修学旅行の中止を決定いたしました。楽しみにしていた3年生には大変残念ですが、コロナ禍において安全・安心での実施が難しいということです、ご理解いただきたいと思っております。

本校では1月13日(水)に、芝浦工大地域創生研究室の学生、杉山峻太さんによる荒川氾濫のシミュレーションを活用した防災教育学習会を実施いたしました。ご参加いただきました地域の皆様ありがとうございました。もし大きな自然災害が起き、皆様が避難しなければならない場合を想定して、地域の皆様に支援できる生徒の育成と体制づくりを目指して市の研究委嘱を令和4年度まで受けております。ご理解、ご協力をお願いいたします。

そして、3年生にとっては大事な時期に入りました。自分の夢に向かっての第一歩を記す時です。私も、模擬面接で生徒一人ひとりと接する機会があり、緊張感が伝わってきます。これまでは、誰もが同じ道を歩んできたわけですが、これからは自分で道を切り開いていかなければなりません。今日の努力が、明日報われるよう願っています。

さて、落合博満さんを知っていますか。プロ野球選手で、ロッセ時代には歴史に残る活躍をし、引退して中日ドラゴンズの監督を務めた方です。その著書「勝負の方程式」の中での話をします。「ヒットを打つには、バットをこの角度で振ると打球はこっちの方向へ、この角度で飛んでいくといった理屈を、まず頭の中に叩き込む。そして、次に、この理屈を自分の身体に覚えさせるために、練習量を十分にとる。バットを多く振った者が勝つ。理屈が頭で理解できたら、徹底的に振り込むことだ。ほかの選手が千回振ったら、二千回振ってみたらいい。必ず身体が理屈を覚え、表現できるようになる筈だ。」「打球を捕られた時に、悔しそうな態度や表情を見せるバッターがいる。これがどうも解せない。こうした場合、私はなぜあの打球が自分で考えていたように、野手の間を抜けていかなかったと思案する。打球に対する自分の対応を反省してみる。一塁ベースからベンチに戻る途中、さらにベンチの中でも、家に帰ってからでも考え続ける」また、こうも言っています。「ほかの選手の打撃を見ていて、重要なヒントを発見する 경우가少なくない。とくに自分が手本とする選手のバッティングを課題をもって観察すべきである。今日は腕の使い方を中心に、次回は腰の使い方というように……。ただ漫然と見ていたのでは、何の勉強にもならない。」彼は、日本プロ野球史上唯一となる三度の三冠王に輝き、これを含めて5度の本塁打王・打点王・首位打者のタイトルを獲得しています。この偉大な打者も人知れず、背中一杯にべっとりと汗をかく努力をしたということです。

